

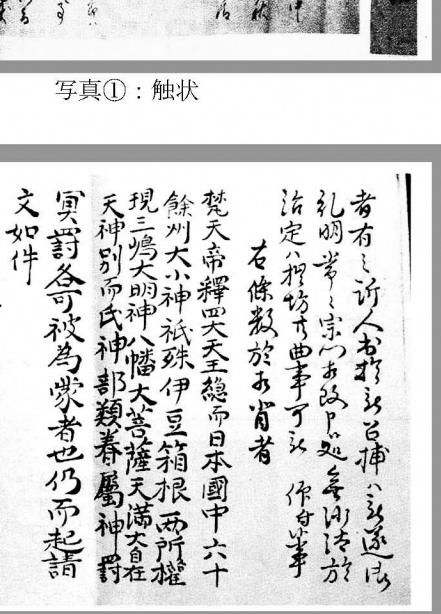
「宗門改め」のこと（二）

あらた

『いっぽてっぽななあつた）配下の修験なので、支丹宗門重々御改被成
ぱすいしょのかんぶく『組織の成員はその日必ず二付キ起請文（写真②）
ろ、ひこさんごんげん、入峰、宗門判形登山せよ書上申ス事』という文書が
さむらいちんこのけ！』

【高橋健吾著「霧の法師たち」】これは一時代前までの篠栗の子どもたちが、鬼ごつこの鬼決めのとき歌つていた童唄です。ここに歌われているのは英彦山山伏なのです、それと並立、ときに激しく対立してきたのが宝満（竈門）山系修験道山伏でした。

「石井坊文書」寛政6年（1794年）の「触状」（写真①）によれば、「宗門改め」は春改め正月20日、秋改め8月10日と定められ、こちらは村方と異なり、宝満山楞伽院（院主の坊舎は現キャンプセンター辺りに）



写真①：触状

者有し訴人おおひら神ハシテ遂に
光明崇ミ宗つお改ム處奉ゆ清方
治定ハ神坊ニ曲事ナシム作手事
右條教於ふ肖者
梵天帝釋天玉總而日本國中六十
餘州大少神祇殊伊豆箱根西所權
現三鷦大明神ハ幡太菩薩天滿大自在
天神別而氏神部類眷屬神
冥罰各々被為蒙者也仍而起請
文如件

安政七年三月



写真②：起請文

『組織の成員はその日必ず二付キ起請文（写真②）と指示。但し大風で登山成り難き節は5日の日延を許す。大病で歩行成り難き者は、その旨触頭まで願い出よ。平癒の上は（触頭発行の）添状を持つて登山し判形を勤めよ。仮病の者は厳しく吟味する』と記しています。なお若杉「石井坊」は、切支丹宗門は天下御一統の御近世には表糟屋郡総社太祖宮の社務別当（本務のほかに別の職務を担当するこかに勤め、糟屋宗像郡と）をも勤め、糟屋宗像郡内の大門山系修験院の東の触頭でした（ちなみに西の触頭は福岡市内の東唐人町の「蓮生院」）。

石井坊には、安政7年（1850年）に書かれた「切た場合は、拙僧どもを厳罰も坊内の男女に万一切支丹もせんでも容赦なく急度申し上げます。一、拙僧どもを厳罰され、かく見えた者はが最も恐れるのは何かが見えます。それは切支丹に限りません。組織された信仰者の殉教心の強靭さです。あの天下布武を掲げて全土制圧目前だつた織田信長は、本願寺一向一揆衆徒に手を焼き、業を煮やして比叡山を焼き討ちし、高野聖数百人を捕らえ、容赦ない殺りを行いました。さて、このように地方の古文書の断片から、日本史の、世界史の、深層が見えてくるではありませんか。異文化排除支配から、異文化受容共生へ。人類の直面する難題も。

に処してください。（中略）右の誓約に違背した場合は（中略）日本国中式内外大小の神祇三千一百三拾余座、天神地祇八百万神、殊に伊勢両大神宮八幡大神春日四所大神、別して産土諸神に、神罰蒙るべき者なり。仍て起請文、件の如し。こんなにも重々の誓約を強いられ続けてきたのです。

『文明の衝突』（アメリカの政治学者ハーバード大教授サミュエル・ハンチントンが1993年に発表、21世紀の世界紛争を予見しているとして、世界に衝撃を与えた著作）に示された衝突の先例でしょうか。この史実から、覇権を握った支配者が最も恐れるのは何かが見えます。